

第4回「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会 摘録

1 日時 平成21年5月28日（木）15時30分～17時30分

2 場所 メルパルク京都 6階「会議室C」

3 出席者 別紙出席者名簿

4 議事次第及び内容

(1) 開会

内藤会長代理：京都大学名誉教授

- 北村会長とは研究室が近く度々お会いしていたが、京都を「歩くまち」にすることに大変な情熱をお持ちであった。今回の審議会は北村会長の集大成と認識し、私も副会長ということでサポートしたいという思いでやってきた。
- 北村会長は、交通分野の第一人者であるが、私の専門は環境であり、分野も違うので、会長代理という大役を果たせるか不安な面もあるが、幸い、北村会長の有能なお弟子さんたちが委員になられているので、全力を尽くしたい。

(2) 議事

- ア 「歩くまち・京都」総合交通戦略中間とりまとめ（案）について
- イ 歩行者優先憲章（仮称）草稿案について

(3) 意見交換

■ 「歩くまち・京都」総合交通戦略中間とりまとめ（案）について

森本委員（公共交通ネットワーク検討部会副部会長）：京都工芸繊維大学教授

- 公共交通ネットワーク検討部会では、中間とりまとめ（案）の全体像について議論し、他の検討部会と共通の認識を持てた。今後の推進体制の点では、国の補助制度の活用や、補助制度についての早めの情報提供を望む声があった。また、公共交通の利便性向上のためには、クルマ利用を我慢させるための支援を望む声があった。

藤井委員（公共交通優先のライフスタイル検討部会副部会長）：京都大学大学院工学研究科教授

- 公共交通優先のライフスタイル検討部会は、市民委員も入って頂き、生活者の視点から、ライフスタイルをどのようにするか議論した。モビリティ・マネジメントについては、具体的に呼びかける際の対象や手法について議論した。歩行者優先憲章については、崇高な理念を示しながら市民の皆様にも親しみやすいものとなるような検討を重ねた。

松中委員（未来の公共交通まちづくり検討部会）：京都大学大学院工学研究科准教授

- 未来の公共交通まちづくり検討部会では、京都の未来像を考えてきた。そこで、例えば、富山市の都市計画マスタープランで、冒頭の市長のことばに「団子と串」のまちづくりが書かれているように、京都市においてもわかりやすいキャッチフレーズを考えることや、市民への訴えかけや目玉となるような具体的な施策の打ち出し方については、外国では映像を使った手法がとられている例があり、参考にしてはどうかという意見があった。

大志万委員：京都府警察本部交通部長

- 3月まで七条警察署長を務めており、現場のことはよく知っている。現場を見ている立場として、基本的な考え方のところで、「安全」という視点が全く入っていないように見受けられた。

事務局

- 具体的な検討を進めていく施策として、都心の道路の歩行空間の拡大や、交通安全の向上について、検討は進めてきている。

大志万委員：京都府警察本部交通部長

- 京都府下の昨年の交通死亡事故は102人であり、その半数が高齢者であった。また、更にその半数は歩行者であった。今後、高齢化率が30%を超えることが予想され、快適ということに加えて「安全」の要素も盛り込んでいくべきではないか。

事務局

- 総合交通戦略は、そもそも自動車の総量を抑制することが目的であり、その結果、交通事故の減少にも寄与すると考えられる。「安全」という面の打ち出しは必要だと思うので検討する。

森本委員：京都工芸繊維大学教授

- 「安全」については、例えば駅や駅周辺におけるバリアフリー化の促進など、ユニバーサルデザインの観点から述べられている箇所もある。

平井委員：京都商工会議所 地域開発・都市整備委員長

- 未来の市民生活のイメージがきれいにまとまっているが抽象的であり、もっと未来のまちの姿や交通のイメージを具体的に書いてほしい。
- 先進国はLRTをうまく使ったまちづくりをしている。京都ならでのLRTを真剣に具体化してもらいたい。また、安全性の観点からもLRTは優れている。

岩井委員：醍醐コミュニティバス市民の会会長代行

- 京都市内にはLRTが適していると思う。京都に住んで本当によかった、観光客の方にも、日本に京都があって良かった、と思われるまちであり続けたい。中間とりまとめ（案）には多くの施策が書かれているが、実際にやるのは大変だと思う。地域と行政や企業が三位一体となって、皆さんに喜んで頂ける京都になるよう、前向きに頑張っていきたい。

佐藤委員：サントリー文化財団上席研究フェロー

- 全体のビジョンや理念が大切である。富山市の場合は「コンパクトシティ」という理念が上位にあった。それをわかりやすく表現したのが、「団子と串」であり、京都でも全体を貫くコンセプトが必要ではないか。これまでの多くの都市はスピードや量など合理性を求めてきたが、これからはクオリティを高めることが重要である。生活の「質」を高めるための「歩くまち・京都」であり、それはまさに「ハイクオリティ都市」を目指すということであり、そういった共通認識が出来ると市民の方にも伝わりやすいのではないか。

藤井委員：京都大学大学院工学研究科教授

- 理念のない計画は計画にあらず、理念があって初めて計画が成立する。歩行者優先憲章については、親しみのある表現で理念を記述することで、あらゆる計画の最上位にあるもの、交通まちづくりの憲法のようなものとなればと願っている。この憲章を中心に据えて、憲章に書かれている理念を実現するための計画のひとつに、総合交通戦略があるということが見えるようになればよい。
- 京都の交通環境が1歩でも2歩でも進んでいる感触を持ちたい。いくつかの施策については、語尾を「～します。」などと踏み込んで宣言して欲しいものがある。そうすることで、市民の方の参画も促せる。

石塚委員：国土交通省近畿地方整備局建政部長

- 「歩くまち・京都」は素晴らしいと思う。「歩く」ということにこだわったまちづくりはとても良いものになると思う。ただし、私たちの日常生活には、苦痛を伴う歩きもあれば、快適な歩きもあり、京都の目指す「歩く」とはどういうことかを示す必要がある。また、歩く「質」を高めるならば、そのための空間も確保していかないといけない。
- LRTは徹底的に快適性を追求した公共交通であると認識している。
- 「歩くまち・京都」は、行政や審議会の委員だけでは作れない。主体は市民の皆様であるので、イメージや絵などの工夫をして、皆様に分かりやすいものを作るべきである。

村上委員：株式会社京都放送ラジオ編成制作局長

- この審議会の委員を務めているうちに、普段の生活の中でも歩くことを意識するようになった。市民の方も歩くことの素晴らしさを身近に感じることで、意識が変わってくると思われる。先行プロジェクトを実施される洛西地域でも、自分の地域が変わっていくというワクワク感を市民の皆様に持ってほしい。

藤田委員：株式会社京都リビング新聞社 営業・統括マネージャー

- リビング京都では昨年 30 周年を迎えたのを機に「良質宣言」というキャッチフレーズを作った。それにより、社員の意識が変わった。キャッチフレーズは、市民の方にわかりやすいように、一緒に取り組めるようなものが良いと思う。
- 施策の実施時期について、短期で実施するものか、中・長期で実施するものか、少し仕分けが必要ではないか。

松中委員：京都大学大学院工学研究科准教授

- キャッチフレーズについては、まちの姿を表すものにするか、戦略に掲げた施策を実施することによる市民生活のアウトプットを表すものにするか、検討すべきだと思う。
- LRTについては、積極的な議論が行われており、この戦略の目玉になり得る。また、イラストで分かりやすく表現するなど検討していく必要がある。
- 京都の年中行事・祭と連携したモビリティ・ウィークについて記載されているが、これはライフスタイルの転換を促すためのものであり、検討部会間の施策の連携を進めていくと良いのではないか。

事務局

- 公共交通ネットワーク検討部会では、個別の施策について実施時期や実施主体を書き込んでいく予定であり、公共交通優先のライフスタイル部会においても、モビリティ・マネジメント行動計画を作成する中で、行程表をつくっていく予定である。

平井委員：京都商工会議所 地域開発・都市整備委員長

- 昔、地下鉄が出来たときに、京都を歩く観光ルートということで、今出川まで地下鉄に乗って、そこで今出川通りのLRTに乗り換えてから歩いて観光することを考えた。
- 観光客と市民とを融合するまちづくりが必要である。東山、嵐山観光地交通対策の課題が、「歩くまち・京都」総合交通戦略にきちんと反映されるよう留意頂きたい。

事務局

- 観光地交通対策は、嵐山は平成14年から、東山は平成15年から実施している。歩くこととその他の公共交通の連携については、鉄道事業者、バス事業者に

公共交通ネットワーク検討部会に参加してもらっており、そこで議論している。今後、駅の場所を示す案内表示や情報提供の問題も含めて、具体的施策について取り組んでいく。

大石委員：大石内科クリニック院長

- 市民の方にわかってもらうには、イメージが必要だと思う。「歩くまち・京都」は、人を中心に考えた抽象度が高いネーミングで、深い意味をもった良い言葉であると思う。歩くことは、健康に良いだけでなく、都市機能としても非常に重要である。
- 市民の方に、市が「歩くまち・京都」を実現してくれると思われないうちにも、自ら「歩くまち・京都」の実現の一員となってもらうためにも、キャッチフレーズを募集するのも良いのではないか。

佐伯委員：京都市地域女性連合会副会長

- 本日、会場に来る際に、タクシー車両などの影響で、京都駅前で青信号でも、バスが進めない状況を目の当たりにして、本当に実現できるのかなという疑問を抱えてしまった。

事務局

- 京都駅前は、観光シーズンは特に著しい混雑となるが、昨年度、七条警察署が中心となり、関係事業者へ呼びかけて協議会を発足し、立て看板の設置、ガードマンの配置、信号時間の調整等の対策に取り組んだところである。今後も、タクシー問題には、警察をはじめとした関係者と連携して取組を進めていく。

岩井委員：醍醐コミュニティバス市民の会会長代行

- 市民の方に対するPRは、文章だけでなく、目で見てわかるようにしてほしい。

■歩行者優先憲章（仮称）草稿案について

佐伯委員：京都市地域女性連合会副会長

- 大志万委員が言われた「安全」という言葉を、どこかに入れられたら良いのではないか。

藤井委員：京都大学大学院工学研究科教授

- 文章は生き物なので、多くの人の意見をツギハギしてしまうと、サイボーグのようなものになってしまうので、内藤会長代理に全体の流れを見ていただければと思う。「安全」という言葉を入れることについては、危険な場所には歩いて出かけたくないので、「安全」はあえて明示しなくても良いという解釈もある。
- 前文第3段落の「そのためには、過度にクルマに頼るのではなく、自分の力で、また時にひとの助けを借りながら、“歩くこと”を中心としたものであるはずです。」の文章は、主語が曖昧ではないか。

内藤会長代理：京都大学名誉教授

- 歩行者優先憲章（仮称）草稿案については、また、お気づきの点などあれば、メールなどで事務局に寄せて頂きたい。

（４）その他

事務局

- パブリックコメントの実施は6月中旬からを予定している。また、公共交通ネットワーク検討部会のワーキングやモビリティ・マネジメントのワーキングを開催して更に具体的な検討を進めていきたい。

（５）閉会

水田交通政策監

- 大変お忙しい中、長時間にわたり、確かな御議論いただきまして、ありがとうございました。
- 事務局の不手際で、本日の審議会や中間とりまとめがスケジュールより遅れておりますことを、お詫び申し上げるとともに、今後はなお一層のスピード感を持って進めて参りたい。
- 2月に開催したシンポジウムや市民アンケートでは、多くの御意見をいただいた。また、商店街の方からも、歩道を広げて欲しいなどの御意見をいただいている。確実に「歩いて楽しいまち」の実現に向かっていくと実感している。門川市長も、事務局の会議に参加して意見を言うくらい、この審議会には注目している。また、都市計画のスペシャリストである由木副市長を迎え、大変心強く感じている。
- 京都市の新型インフルエンザ感染者は2人で、1人目の濃厚接触者は13人、2人目の濃厚接触者は19人であったが、それぞれ感染していないことが確認できた。京都を訪れる観光客の皆様や市民の皆様に、京都は安心安全であることを発信していきたい。委員の皆様は、それぞれの立場でその方面に発信力のある方々ばかりなので、是非とも協力頂きますようお願い申し上げます。
- 第5回の審議会には、もっともっと皆様の意見が反映されたものとなるように、事務局も頑張っていきたい。

第4回「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会 出席者名簿

(敬称略)

会長代理	内藤 正明	京都大学名誉教授
委員	石塚 昌志	国土交通省近畿地方整備局建政部長
"	岩井 義男	醍醐コミュニティバス市民の会会長代行
"	上田 成之助	京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長
	(代理:脇 博一	京阪電気鉄道株式会社常務執行役員)
"	大石 まり子	大石内科クリニック院長
"	大志万 耕次	京都府警察本部交通部長
"	太田 昇	京都府総務部長
	(代理:関 正典	京都府交通部交通政策課長)
"	大橋 幸之助	西日本旅客鉄道株式会社執行役員京都支社長
	(代理:奥野 嘉啓	西日本旅客鉄道株式会社京都支社営業課長)
"	佐伯 久子	京都市地域女性連合会副会長
"	佐藤 友美子	サントリー文化財団上席研究フェロー
"	角 和夫	阪急電鉄株式会社代表取締役社長
	(代理:奥野 雅弘	阪急電鉄株式会社都市交通計画部副部長)
"	平井 義久	京都商工会議所 地域開発・都市整備委員長
"	平嶋 隆司	国土交通省近畿運輸局企画観光部長
	(代理:堤 俊哉	国土交通省近畿運輸局企画観光部交通企画課長)
"	藤井 聡	京都大学大学院工学研究科教授
"	藤田 晶子	株式会社京都リビング新聞社 営業・編集統括マネージャー
"	松中 亮治	京都大学大学院工学研究科准教授
"	村上 祐子	株式会社京都放送ラジオ編成制作局長
"	森本 一成	京都工芸繊維大学教授
"	由木 文彦	京都市副市長
"	葛西 宗久	京都市公営企業管理者 (交通局長)

(事務局)

水田 雅博	交通政策監
佐伯 康介	都市計画局歩くまち京都推進室長
木村 裕	都市計画局歩くまち京都推進室担当部長
黒田 芳秀	環境政策局地球温暖化対策室長
鷺頭 雅浩	文化市民局市民生活部長
堀池 雅彦	産業観光局商工部長
二木 久雄	建設局土木管理部担当部長
古川 衛	建設局道路建設部長
木村 繁	交通局企画総務部担当部長
	他